

第1学年C組 国語科書写学習指導案

平成14年11月1日（金）10：00～10：45 1年C組教室 指導者 西尾 由紀

1 題材 文字のかたち

- 2 目標
- 漢字の大体の形を理解し、文字の形を考えて丁寧に書くことができる。
 - かたかなの大体の形に注意して丁寧に書くことができる。
 - 姿勢や用具の持ち方に気をつけて、めあてをもって意欲的に学習することができる。

3 指導計画（全2時間）

第1時 「月」「二」「竹」の大体の形を知り、文字の形を考えて書く。（本時）
第2時 かたかなの大体の形を理解して、文字の形に気をつけて丁寧に書く。

4 指導上の立場

- 低学年における書写の指導では、「姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと」「点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと」をねらいとしている。

始筆・送筆・終筆を正しく書くことと同時に、文字の外形を理解し、外形に注意して書くことは、字形を整えて書くための重要なポイントである。

児童は入学以来、ひらがなや漢字の「止め」「はらい」「はね」などを理解し、それらに気をつけて文字を正しく書こうとする意識をもち始めている。また、ひらがなの大体の形を理解し、意識して書こうとする姿も見られ始めている。整った文字を書こうとする意識が高まるにつれて、教材文字と自分の書いた文字とを比べては「少し大きすぎた。」「○画目が長すぎたから失敗した。」と振り返る児童も見られ始めた。文字の外形は、画の長さに大きく左右される。文字の送筆や終筆には気をつけて書こうとするが、画数の多い漢字になると、画の長短にまで注意することは難しく、文字の外形が整いにくい児童も見られる。

そこで、「大体真四角」「少し縦長」「少し横長」といった漢字やかたかなの大体の形を理解させ、より整った文字を書くことができるようにしたいと考え、本題材を設定した。

- 本学級の児童は、文字を書くことは「好き」だと思っている児童が多く、「もっと上手に書きたい。」などの願いをもって文字の練習に取り組む姿も多く見られる。書写の時間には、特に意識して整った文字を書こうと真剣に取り組む児童が多い。

しかし、願いはあっても、文字の形をとりにくく、「むずかしい。」「字を書くのは面倒。」と思っている児童も見られる。指先の動きが十分にコントロールできないために、一点一面を正しく書こうとしても思うように表現できない児童も数名見られる。また、書くときの姿勢や鉛筆の持ち方が適切でない児童も見られ、継続的な意識付けが必要である。

そこで、鉛筆の持ち方の矯正用具を用いたり、個に応じた声掛けを行ったり、個別の課題に応じた学習プリントを用意したりして、個人差に対応しながら正しい文字を書く基礎となる力や丁寧に書く態度を育てていきたいと考える。

- 本校の研究テーマ「生きる力を育む書写教育のあり方―すすんで取り組み、書く喜びのもてる学習をめざして―」に迫るために、低学年では、めざす児童像を「書くことに興味をもち、喜んで書こうとする子ども」と設定し、書写学習の基礎となる文字間隔を体験の中で身につけていけるように、練習方法などの工夫を行ってきた。子どもが用筆を理解するための手法として、五感を使った活動を多く取り入れて、楽しく気付きを膨らませたり体感したりできるような活動のなかで文字を見る力をつけていけるように考えた。また、1年生なりに自分の文字のよさに気付き、達成感を味わうことができるように、シールや赤鉛筆を活用して自己評価や相互評価を行い、文字を見る力をつけるように考えた。

本時では、つかむ活動の中で文字カードを使い、文字の外形に意識を向けることができるようにする。また、すすめる活動では、個に応じた練習用紙や文字の外形を体感することができるさまざまなコーナーを設けることで意欲的に練習できるようにする。また、文字を書く時に姿勢や鉛筆の持ち方を再確認することができるように適切な助言をしたいと考える。確かめる活動では、自分の文字のよさに気付いたり、友達や教師から称賛されたりすることにより、自分の伸びを確かめ成就感を味わうことができるようにしたい。

5 本時案（第1時）

目標	- 漢字の大体の形を理解し、文字の形を考えて丁寧に書くことができる。 - 正しい姿勢、用具の持ち方を意識しながら、丁寧に書くことができる。 - 自分や友達によさに気づき、喜んで書くことができる。		
	学習活動	教師の支援	準備
つかむ	1 めあてをもつ。 - 文字の大体の形について理解する。 - 試し書きをして自分のめあてをもつ。	- 文字カードを使って、「月」の大体の形に注目することにより、学習への意欲づけを図る。 もじのかたちになきをつけてかこう。 「月」「二」「竹」の大体の形はどれかを話し合い、拡大文字に外形のシートを重ねることで、書き方のポイントを意識付けることができるようにする。 「月」…少し縦長 ドアの形 「二」…少し横長 黒板の形 「竹」…大体真四角 さいころの形 - 空書をし、正しい筆順を押さえてから入る。 - 書写体操をすることにより、正しい姿勢と用具の持ち方を意識付けてから試し書きを行うようにする。 - 自分の字に外形のシートを重ね、直していきいたいところ、もっと上手になりたいところを赤鉛筆で印をして、自分の課題をもつようにする。 - めあてをもつことが難しい児童には、教師が助言をする。	文字カード ワークシート 掲示用資料 シール
	2 練習する。	「月」の形を変えながら示し、画の長短に気をつけて書けば外形が整うことを確認することができるようにする。 - 児童のめあてに合った練習を行うことができる	外形シート 指示棒 拡大文字
すすめる			

すすめる		ように、それぞれのコーナーについて説明をする。 ○ どの練習方法を行うか迷っている児童や、めあてにそった練習方法を選びにくい児童には、どの練習方法で行えばめあてに合っているかを助言する。 ・ 練習用紙…めあてにあった用紙で練習する。 ・ 水書用紙…大きく書いてこつをつかむ。 ・ 分解文字…文字の形を変えて大体の形を確かめる。 ・ 拡大文字…大きくなぞってこつをつかむ。 ・ 米ぬか …大体の形を確かめながら書く。	練習用紙 水書用紙 タンポ 分解文字 米ぬか
確かめる	3 まとめをする。 ・ まとめ書きをする。 ・ 評価する。	○ 文字の大体の形を確認し、印象づけながら範書をすることで、意欲を高めてからまとめ書きができるようにする。 ○ まとめ書きの中で、よくなったところを見つけて「がんばったよシール」を貼り、自己評価をする。 ○ 友だちの字を見て、よくかけている字に「ほめほめシール」を貼り、お互いの伸びを認め合うことができるようにする。 ○ 教材提示装置を使って伸びの見られる児童を称賛する。	ワークシート シール 教材提示装置
評価	・ 漢字の大体の形を理解して、外形を考えて丁寧に書くことができたか。 ・ めあてに沿って意欲的に取り組むことができたか。 ・ 姿勢や用具の持ち方は正しくできたか。		